

第九十五回楽々俳句会(ちば歩)

令和五年五月十一日(木) 晴

吟行…京成千葉駅九時集合おゆみ野線探訪

投句三句

五句選

句会場…活動センター 十時から

3 3つり革の規律よく揺れ薄暑かな

2 単線の駅で降りけり夏帽子

聖母月哀歎乗せし鉄の道

武久 2 2上総より青葉風曳く鉄路かな

武久 2 おゆみ野ホーム吹く風若葉冷

おゆみの線ホーム吹く風若葉冷

おゆみ野のホーム吹く風若葉冷

武久 1 はつ夏の旅は単線吟行す

久 2 4万緑のど真中行く吟行車

久 1 2日を浴びる沿線の街風薫る

久 4 あの時雨の匂ひの夏帽子

久 4 俳句旅各駅ごとに初夏の句

武 駅員のかわす挨拶新樹光

久 振り返る睡蓮浮かぶ里の池

久 2 1風五月茶杓にありて竹の節

久 1 3十字切る田んぼの燕水鏡

1 2風はこぼ藤の香りの艶めかさ

1 1路線図の色を乗り継ぐ夏木立

1 青嵐届いたメール入籍す

1 ばさばさと麦刈る男腰延ばす

3 日の温み花の開花を急ぎをり

3 車窓から立夏の富士に雲なびく

3 そよ風の生る植田の二三枚

2 峠超へ一息つきし山笑う

2 木下闇魅入る祠の道祖神

2 中山道行く足重く五月雨や

2 しばらくは万緑の旅ニュータウン

2 新緑や新築急ぐ槌の音

1 降車駅美声をきくや老鶯

老鶯や美声ききたる降車駅

ミチ子

粹歩

信雄

恵美子

静代

武彦添削

久登添削

粹歩

武彦

豊隆

園子

弘子

成子

武彦

ミチ子

宣子

豊隆

育子

成子

弘子

園子

弘子

武彦

静代

恵美子

静代

宣子

久登

ミチ子

1 初夏の街送電線のたるみたる 久登

1 一本の新樹に目が行く車窓かな 目が行く 粹歩

1 単線路しならず房の青葉かな 恵美子

1 短日や昔話の老夫婦 育子

1 俳句の日初めてなのに地震きた 郁乃

新緑や俳句デビューの朝の地震(ないと読む) 季語無し

1 再診の告げられており花の冷 洋子

1 降りる駅降りずに過ぎる昼寝覚 育子

1 山路往く耳は鶯句は俺まかせ 耳に 豊隆

1 古稀過ぎしパンプス捨てて衣更 更衣 成子

1 小さき風拾ふ街活きて春の駅 新樹光 今日子

鉄線花精一杯の朱をひろぐ

牡丹咲く昔を今に見る女将

牡丹の芽覗きて我が家垣根越し 我が家の垣根越したる牡丹かな

四季の前半そでの夏希望です 待こがる半袖シャツや好きな夏

電車の棚初夏のリュックをどんとかな 初夏の電車の棚へ赤リュック

夏立つや緑一面谷地摩く 夏立つや谷地の緑の靡きたる

お目ざめは森の囀り玉子焼

夕暮れに笛ゆでる妻の笑み 夕暮れや笛ゆでる笑みの妻

春雨の妙音となる夜のリズム あおしぐれ滴の妙音リズムよく

静夜の声澄みわたる青葉木菟

更衣いつできるのかこたつも半天しまえない 半天は空の半分

春寒しスマホ操る刻を超へ 更衣しおどき何時か今日の朝

五類へと五月の電車裏顔のまま 夏近し刻越へスマホ操りぬ

薔薇咲いて虫らに多忙始まりぬ

洋子・恵美子・弘子・育子・ミチ子・静代・今日子・

園子・宣子・成子・郁乃

信雄・利太郎・粹歩・豊隆・武彦・久登

郁乃さん初参加

予定

六月八日(木) 千葉公園 九時集合 十時 活動センター

七月十三日(木) 千葉市役所見学十二時集合 十三時 新宿公民館

八月十日(木) 吟行なし 十時活動センター 暑気払い